

Fast life, slow life

村越 真

合宿と調査に明け暮れた年末年始を乗り切って、1月後半から2月にかけてはオリエンテーリング・ナビゲーション三昧。

一人でふらっとでかけるローカル大会に、少年のころを思い出し、しばしのスロー・ライフ

12月15日-17日

この週は、憑かれたようにスピードトレーニングをした。大学内での登坂インターバルでは、3本限りだが、久しぶりに3分10秒を切るタイムが出た。その後トラックでのインターバルもやった。練習後に感じる太ももの痛み、心地よささえ感じた。

12月19日

地図調査。昼過ぎから黒い雲が出、14時を過ぎると、乱視の僕には調査板を見るのが苦痛なほどの暗さだ。15時を過ぎると、時折風花さえ舞う。気温も下がりがつづき、16時を過ぎると本格的な雪になってしまった。チェーンが必要になるまでは時間がかかるだろうが、調査板に雪が積もっては仕事にならない。調査をやめて岡崎に下りる。岡崎公園その他でジョグ。

12月20日

翌朝6時ごろ起きてびっくり。一面の銀世界。WOCの会議のため美合に向かうが、電車も30分以上の遅れはあるわ、豊橋行きの電車が東岡崎止まりになっているわで、大混乱だった。それでも予定時刻から30分以内には、東京や京都からも役員が集まり、無事会議ができる。

まだまだ甘いぞ、オリエンティア

12月21日

御殿場の中央青年の家で、静岡大学の体育会研修のためにスポーツ心理学の話をする。その後十里木のクリッククラックでサマーチャレンジの地図を回収した。2万円以上のスポンサードをしてもらったのだが、それだけの見返りはあったのだろうか。

その後、朝霧のフェアリーテールに山村さんを訪ねる。山村さんは日本人女性として初めてパリダカラリーをバイクで完走した「元祖バイク少女」だ。



大学のスポーツ体験フェスティバルにて。キッズOの説明をする筆者

6月の伊豆アドベンチャーレースのトレーニングキャンプで出会った後、ナビゲーション本を送ってあげた縁で、一度は訪問したいと思っていた。

到着するなりワインが出てきた。何も言わないが、「当然泊まってくんでしょ」みたいな雰囲気だった。床には転がり込んできたバイク少年と思しき人物が寝ている。さすが山村邸と感心していると、山村さんが「これ女なんですよ〜!」という。もうすでにどちらも出来上がっているようだ。GPSの製品評価にやってきたビーパルの編集者なのだそうだ。

この編集者がバツイチ、山村さんがバツ2。唯一バツなしの梶川さんも、「ある日赤い満月を見てバイク雑誌の会社をやめ、ここに転がり込んだという経歴の持ち主だ。オリエンテーリング界でも、最近は「道を踏み外す」選手が少くないが、バイク界に比べるとまだまだ甘い。

最初の一杯の時点では、「あとは適当に切り上げて帰ろうかな」と思っていた僕も、次々に出てくる日本酒やワインの魅力には負けて(というか山村さんの無言の押しかな)まあ、明日朝早く帰ればいいやという感じになってしまった。

彼女がどうやって、やたらに家の立てられない国立公園内で家を建てたのかが知れたかったのだが、彼女たちと話しているうちに、そんなことはどうでもよくなってしまった。

11時ごろソファの上で眠らせてもらって、4時ごろには帰宅。その時にはくだんの編集者はもういなくなっていた。

12月22日

スピードトレーニングの多い先週の後、二日あけたので体は軽く、ひざの痛みもない。トレーニングの距離は、最近になって増やし始めたので、14km走ると最後がづらい。腰は久しぶりに重く、接骨院にいって休み。翌日も自宅近くの松原でインターバル。あちこちからだか痛く、特に太ももの裏はバリバリだった。午後チャコに軽くほくしてもらい、少しよくなる。こういう筋肉痛も、体を強くする過程と思うと、喜ばしくさえある。

12月26日

今日から4日間の作手の山ごもり。26日は100コントロールの設置。スコードで募ったものの、僕と藤井君しか名乗り上げたものがない。さすがに二人では辛いので、ジュニアのトレーニングのコーチもかねて堀出知里を誘う。

そんな付加価値でもない、真冬に作手の100コントロールの設置なんてやってられないよね。実働2時間。一人で50個ほどのコントロールを設置して、ふらふら。

12月27-29日

午前中25個のコントロール設置をして、午後は合宿。28日は15時半を過ぎても帰ってこないジュニアを探しに山中を歩き回る。真剣にレースをした後の搜索は、歩きながらと言えどもこたえる。富士ならともかく、黒坂の森とジュニアのナビゲーション技術では、どんなことでも起こりえる。1時間以上探して発見できず、これ以上は体制を立て直さないと無理だと観念してフィニッシュに戻ると、当のジュニアはもう帰還していた。まずはめでたし。

12月30日

東京で、父の喜寿祝い。夕方、綾と走ったあと1時間のジョグ。彼らはいつものまにか4kmくらいいっちゃんになっていた。体は気持ちよく動いたが、最後の10分くらい、右ひざに軽い違和感。

1月1日

横浜の母を訪問。昨年はチャコの実家新座から大森まで走ったことを思い出し、よし今年も走るぞ！の気合を込めて大森から横浜までジョグした。昨年よりはるかに短い24kmだが、22km以上走るの、1年ぶりだった。国道15号沿いの各所で、翌日の箱根駅伝中継の予行演習をしている。ゆっくり走ったので、特に支障なく走りきれ。途中、膝等に軽い痛みがでるが大事にいらす。夕方、綾のトレーニングにつきあ。さすがに午前中のハンディーがあって、怜には勝てず。

1月3日

下山調査の後名古屋に滞在。翌4日は会議。

1月10-12日

3連休は弘太郎に付き合っ調査。中11日は飯田で野外教育関係の研究会に呼ばれている。飯田なら奥三河から車で2時間ちょっと。10日夕方、弘太郎を宿に送って、153号線を通って飯田に向かう。

地図で151号か153号か迷ったのだが、結局ルートは素直さで153号を選択した。これが実に曲者だった。稲武を過ぎるあたりから雪がちらつき始め、峠を越えるころには道路は雪で真っ白になっていた。峠越えを諦めて戻っていく車がある。こちら四駆だが、タイヤはノーマルだ。せめて四駆にすればなんとかなると思ひ、四駆に切り替えて、スピードを徹底して落として進む。さすが四駆だけあって、特にスリップすることもなく積雪区間を通過したが、緊張でのはカラカラだった。だいたい153号沿いにはスキー場が2箇所もあるのだ。

それに気づいていたら、151号にしていたら。

雪の区間を通過して、自分がハブをロックしていないことに突然気づいた。ロックがなければ、車軸は動くが、実質的には四駆になっていない。実はノーマル後輪駆動で積雪区間を乗り切ったのだ。

翌11日夜遅く作手に戻ってきて、12日は再び調査。1月だというのは暖かく、ひとときも寒さを感じることなく、一応のノルマ終了。

1月13日

調査はしたが、ほとんど走れなかった週末があけて、久しぶりに長く走ろうかなと思っていた夕方、大学内を歩いていると、突然突然右足甲に鋭い痛みが走った。その痛みは疲労骨折すら疑わせた。当然ランニングは休みにして、体育館でのトレーニング。

この日、日本地図センターからメールが届いていた。5万分の1地形図の新図式に関する委員会の委員就任の依頼であった。幼少のころから地図に親しんだ自分として、国の基本図の図式規程に携われる以上の名誉があるだろうか。行政関係の委員など、権威付けの飾りだと分かっている、うれしい。

1月14日

まだ足の甲に痛みは残る。今日も体育館。低い負荷で筋肉に限界ぎりぎりの鈍い痛みが出るまで反復回数を増やしてみる。新たな筋肉の使い方を実践している実感がある。効果のほどは？

1月18日

センター入試終了後、夕方ゆっくり河原を走ってみる。ちょっと違和感が出そうだが、1時間以上何もなく走れた。後半体の動きも滑らかになり、心地よい。スーパー銭湯にいったマッサージを受ける。

イドvsスーパーエゴ

1月21日

妙な夢を見た。自分が広島県OL協会に転職した夢だ。多方面にわたるオリエンテering関係の仕事をごこなしていると、「大学で働いている場合じゃないな」と思うことがしばしばある最近の顕在意識を見事に反映した夢だ。それが日本オリエンテering協会じゃなくて、広島県オリエンテering協会だということに、微妙な躊躇が垣間見える。「広島なら当然I嬢が秘書だよな」と喜んで赴任すると、確かに彼女はいる。しかし様子が変わる。なんと彼女は後輩のHさんの妹に仕事を引き継いでいるではないか。辛い仕事には心の支えがほしいというイドと、人に頼らずしっかりやりなさいというスーパーエゴが複雑に絡み合っている。その光景にやや落胆しな

がら机を見ると、処理すべき書類が山積み・・・！

1月24日

大学のプロジェクトで、体験スポーツフェスティバルを実施。サッカーと卓球の教官と組んで、それぞれのスポーツ教室を大人向け、子ども向けで実施する。子ども向けのオリエンテeringは、教室というよりもキッズO形式と最初から決めていたが、大人向けの単なるオリエンテering教室では人は集まらないだろうと考え、「登山にも役立つナビゲーション教室」として、実践編としてオリエンテeringを実施することにした。

大学周辺に2万枚のピラを新聞に折り込み、大学近くの学校2校に計1500枚ほどのピラ、さらに朝日の静岡マリオンと地方紙に記事掲載。その結果、子どもの参加が14名。大人のナビゲーション講習が12名。子どもの参加の中にはうちの子と彼らが誘った1名が加わっていることを考えれば、大人・子どもとも実質は10名の参加だ。

では、サッカーと卓球はどうかというと、サッカーは意外なことにオリエンテeringよりも参加者が少ない。サッカーをやりたい子はすでに学校や地域のスポーツクラブでその欲求を満たしているのだろう。静岡ならではの事情である。

卓球の方は、20台近く出した卓球台がほぼ埋まるくらいの盛況で、ざっと見て子ども20人以上、大人も20人近くが参加している。意外な人気にびっくり。

このフェスティバルの経験は、オリエンテeringの弱点と可能性を同時に教えてくれた。これまで学校や国体でキッズOは大きな成功を修めているが、それは「動員」があればこそというわけだ。やってみれば子どもたちはかなり楽しんでくれるが、スポーツとしてのイメージの希薄なオリエンテeringは新聞やピラのような媒体のみでは、参加してみようというほどの気持ちを喚起されないのだろう。そういう子どもたちへのPR方法については、まだまだ検討の余地が大きい。

反面、ナビゲーション・スキルというオリエンテeringの本質的な部分が十分売り物になるという実感も得られた。実際最初にピラをまいた直後に、すでに4人の大人から参加の申し込みがあったという。

1月25日

12月になくなった祖父の、遺産相続の相談のため、横浜に行くことになった。少し早めについて走ろうかなと思っていると、チャコが「パークOがあるじゃない」という。ネットで要項を見直すと、二俣川から歩いて15分。受付は11時まで。予定していた特急東海ではちょっと遅刻だが、許してもらえ範囲だろう。

全日本リレー以来レースもしていないこともあって、珍しく、いきたくていきたくて仕方なくなった。

朝9時の「ワイドビュー東海」でゆっくり清水を出て、相鉄で二俣川に向かう。たった一人で電車を乗り継ぎ、鉄道の駅から歩いて会場に向かうなんて、久しぶりだ。郊外の住宅地を抜けた先が会場だなんて、とてもレトロ。30年前のオリエンテーリング少年だったころを思い出して、なんだかうきうきしてしまった。イドに従う快樂原則こそが、つらい時期を乗り切る鍵なのかもしれない。

スポーツの中心で普及を叫ぶ

1月28日

大学院のゼミで、剣道部の学生が、8段剣士に挑戦する元全日本選手権者のビデオを見せてくれた。剣道人口10万人以上の日本にあって、8段は現在約200人。合格率1%未満という難関である。その8段審査に20年来挑戦している78歳の清水在住の剣士がサブ主人公だった。彼は元会社役員。退職後は、自宅の庭に道場を建て、近所の少年たちに剣道を教える傍ら、自分も静岡に住む8段のところに時折出向き、稽古をつけてもらう生活だという。

スポーツの普及・発展には、組織の力もさることながら、スポーツの発展のためなら私財の投入をも辞さない一人一人の熱意が重要なのだ。もちろん、そのスポーツに、そう思わせるだけの深みがなければならぬのだが。

1月31日

東京代々木のユースセンターで開催された「子どもの自然体験安全対策シンポジウム」に出席、基調講演を務める。苦手なので、講演前はたいいてい気が重いのだが、今回は最近面白いデータが出たばかりの危険認知の話なので、幾分か気が楽だ。ChicagoのSaturday in the parkを聞きながら、土曜日の代々木公園を横切って歩くと、気分はニューヨーカー。

シンポジウムで発表される多くの事例を聞いて思うのは、オリエンテーリング界の危険に対する意識の低さである。よく言えば牧場だが、悪く言えば、いつ訴訟など大きな問題が起きてもお不思議はない。そういう事態に至らないのも、オリエンテーリングがマイナーな競技に甘んじているからだと思わざるを得ない。国立少年自然の家での不審者進入の事例や、日本では熊で死ぬ数の10倍以上の人がハチ刺して死んでいるとか、訴訟の実例など、自分たちにとっても他人事ではない話題が多い。

2月1日

滝山城跡で開かれた多摩オリエンテーリングの練習会に、利佳ちゃんと参加。



? 2月8日 :ナビゲーション講習会にて、三叉路でルートを検討している参加者たち

あまりオリエンテーリング向きとは思えない、藪と雑木林のコンピネーションが、1970年代を彷彿させる。

行き帰りの新幹線では、同僚吉田さんと執筆中の本の原稿に目を通す。吉田さんは、日本卓球連盟のスポーツ科学委員を務めるパイオメカニストで、日本で唯一の卓球NPO「卓球交流会」の理事長でもある。「卓球だからできること」を旗印に、地域で地道な活動を続ける彼の活動の幅広さと、その背後にある卓球やスポーツ普及への思いに感銘して、原稿には思いっきり赤を入れてあげた。

2月3日

日帰りで、久留米の小学校社会科の研究会の講師を務めた。社会科は地図だ。だが最近では社会科教員でも地図が読めない、使えない人が少なくない。是非地図の専門家に話しをしてほしい、という研究会会長の依頼で呼ばれたそう。博多から久留米までの往復は取り持ってくれた帝国書院の福岡支店の人が同行してくれたが、「私たちが地図の読み方の出張授業を年間100回以上やってるんですよ」なんていう裏話が楽しかった。

2月8日

読図とナビゲーションのための講習会を静大を会場に実施する。山と渓谷に予告記事を載せてもらったおかげで、静岡はもちろん東京や群馬からも参加があったのには驚いた。特に遠隔地から来る人は、その地域のクラブなどで中核をなす登山家のようで、講義、山での実習ともに熱心だった。

登山者対象ということで、読図実技には2万5千分の1地形図を利用した。自分でも改めて驚いたが、最近の2万5千分の1地形図の精度なら、大きな特徴がない場所でも1本1本の等高線を読み込むことで、ピンポイントに位置の確定ができる。だいたい現在の把握ができる参加者も、その精度とそのために読み込んでいた情報の多さには大いに驚いた様子だった。

感想の中で興味深かったのは、技量や経験のある人ほど、「アウトドアナビゲーションはコンパスワーク」と信じている点だった。講義の中で「(いわゆる直進の)コンパスワークを使う機会はほとんどなく、整置が重要だ」と強調し、実技での整置による地図読みの重要性を繰り返したにも関わらず、最後のアンケートには「コンパスの使い方をもっとやりたかった」というコメントが少なくなかった。

全般的には好評で、事後にもわざわざお礼のメールやオリエンテーリング実技の中で何を考え、どう判断したかを送ってくれた参加者もいた。ナビ技術講習の需要を改めて感じ、オリエンテーリング普及の可能性を感じさせる週末だった。

講習アシスタントを手伝ってくれた利佳ちゃんと、フラッグ撤収を兼ねてジョグ。しばしのスロー・ライフ。

2月11日

カッシーの結婚式で東京へ。新郎友人は全てオリエンティアの気楽な式。



? カッシー結婚式にて。新婦とソーショツト。

(村越 真)